



防草ブロック

●群馬県防草ブロック工業会 (全国防草ブロック工業会加盟) が発足

北野氏は、生産農家の高齢化や後継者不足などによる小規模経営規模の現状を報告すると共に、20年後の農業人口は30万人未満となる事を指摘。農業再生の方法として、ICT(情報通信技術)を活用した農業事例について講演した。

の強い外来種の雑草が爆発的に増えている現状を指摘した上で、「防草ブロックと防草エレファンドレンは植物を限定しない。どんな植物でも防草できる。スタートしたばかりだが、名古屋大学の実証検証の経過観察を含め、研究開発の余地は残されており、共同研究を進めたい」と前置きして講演に移った。

我が国における「環境」と「国土」分野の有識者によって、我々の技術が評価されたことを非常に心強く思っている。また設計コンサルや役所向けのPRツールとしてCADデータなど製品資料のメディア化を進めCD-ROMとして頒布したい。既に中部地方では好評で是非全国へ普及拡販を図りたいと考えている」と述べた。

群馬県及び県内市町村の防草ブロック拡販に向けた自治体への体制づくりと販売促進を目的に、会員社であるトキワコンクリート工業の堀弘司社長(本社、前橋市荒子町)が発起人となり、太陽コンクリート工業(本社、高崎市、社長II富沢茂隆氏)、赤城商会(本社、渋川市、社長II永井明氏)両社の賛同を得て4月に発足。会長には太陽コンクリート工業の富沢茂隆氏が就任した。

立総会が9日、前橋マキキュリーホテル(群馬県前橋市)で開催された。群馬県及び県内市町村の防草ブロック拡販に向けた自治体への体制づくりと販売促進を目的に、会員社であるトキワコンクリート工業の堀弘司社長(本社、前橋市荒子町)が発起人となり、太陽コンクリート工業(本社、高崎市、社長II富沢茂隆氏)、赤城商会(本社、渋川市、社長II永井明氏)両社の賛同を得て4月に発足。会長には太陽コンクリート工業の富沢茂隆氏が就任した。

●●「国土と環境」各分野の有識者の評価を得た防草製品・技術です●●
雑草が自ら成長を止める次世代製品
第16回「国土技術開発賞」受賞 第40回「環境賞」受賞

私たちの防草製品は、環境製品として次世代へ繋がる公共工事を実現します。

防草ブロック NETIS# CB-050041-V 業界初!! 次世代グレーチング

【北海道】 山田産業(株) (株)旭ダンケ	【東京】 豊国コンクリート工業(株)	【富山・石川】 (株)アドヴァンス	【鳥取】 和光産業(株) (株)ホクコン
【青森・岩手・秋田】 (株)坂内セメント工業所	【埼玉】 柳沢コンクリート工業(株) 藤沢コンクリート(株) ヤマケイブレコン(株)	【滋賀】 平和コンクリート工業(株) 協和コンクリート工業(株)	【島根】 (株)イズコン 和光産業(株)
【山形】 (株)坂内セメント工業所 工藤コンクリート(株)	【神奈川】 豊国コンクリート工業(株) 岡村建興(株)	【愛知】 矢野コンクリート工業(株) カネヤス建材工業(株) 大有コンクリート工業(株) 平和コンクリート工業(株)	【広島】 (株)後藤商店
【宮城・福島】 (株)坂内セメント工業所	【山梨】 (株)高見澤	【三重】 平和コンクリート工業(株) 松阪興産(株) 石田鉄工(株) 矢野コンクリート工業(株) カネヤス建材工業(株)	【香川】 (株)カンケン
【群馬】 太陽コンクリート工業(株) トキワコンクリート工業(株) (株)赤城商会	【新潟】 (株)アドヴァンス	【福岡】 下村コンクリート工業(株)	【徳島】 (株)カシハラ
【栃木】 (株)坂内セメント工業所 平渡コンクリート工業(株)	【長野】 (株)高見澤 (株)丸治コンクリート工業所	【沖縄】 沖縄県コンクリート二次製品(協)	【福岡】 【賛助会員】 (株)北斗型砕製作所(福島) (株)フォーテック(石川) (株)大地(石川) (株)三秀(三重) (株)中野工業所(福岡) 森山工業(佐賀)
【茨城】 千葉産業(株)	【岐阜】 (株)丸治コンクリート工業所 協和コンクリート工業(株) 矢野コンクリート工業(株) カネヤス建材工業(株)	【静岡】 土屋建材(株) 平和コンクリート工業(株)	【徳島】 (株)カシハラ
【千葉】 三洋コンクリート工業(株) 千葉産業(株)		【兵庫】 カサイコンクリート(株) 山陰コンクリート(株)	

日本雑草学会 会員
全国防草ブロック工業会 27年度新規会員 募集開始
豊田市田羽町広久手614-184 (株)矢野コンクリート工業内(井浦・江森)
TEL (0565)43-3700 FAX (0565)43-1855 mail: iura@yanocon.co.jp

第4回総会を開催

東海3県で実績拡大

全国防草ブロック工業会 5社入会、会員62社に

次世代ブロックとして全国展開している全国防草ブロック工業会(会長=矢野明正氏)は6月25日、アパホテル名古屋錦(名古屋市中区)で第4回総会を開催した。総会は2部構成で行われ、第1部で議案審議を行い、平成26年度活動報告・会計報告、平成27年度活動方針・予算案を原案通り可決承認した。第2部では防草技術の概要プレゼンテーションと講演会が行われた。同工業会には新たに5社が入会、会員社は62社になった。



矢野会長

●第1部
総会開催にあたり挨拶した矢野会長は、日頃の工業会運営に対して会員各社に謝意を示した上で、「今年度の活動では技術コンテストへの応募を引き続き進め、製品の認知度向上を図りたい。昨年は国土技術開発センター主催の第16回国土技術開発賞で入賞を果たし、一昨年の第40回環境賞受賞と共に

「東海3県では国交省各国道事務所や県建設事務所等で確実に実績を伸ばしているが、施工後でも後任担当者が防草ブロック施工現場を識別できるように現在対策を進めている」と述べた。また防草ブロックについて、「東海3県では国交省各国道事務所や県建設事務所等で確実に実績を伸ばしているが、施工後でも後任担当者が防草ブロック施工現場を識別できるように現在対策を進めている」と述べた。



「東海3県では国交省各国道事務所や県建設事務所等で確実に実績を伸ばしているが、施工後でも後任担当者が防草ブロック施工現場を識別できるように現在対策を進めている」と述べた。また防草ブロックについて、「東海3県では国交省各国道事務所や県建設事務所等で確実に実績を伸ばしているが、施工後でも後任担当者が防草ブロック施工現場を識別できるように現在対策を進めている」と述べた。

「東海3県では国交省各国道事務所や県建設事務所等で確実に実績を伸ばしているが、施工後でも後任担当者が防草ブロック施工現場を識別できるように現在対策を進めている」と述べた。また防草ブロックについて、「東海3県では国交省各国道事務所や県建設事務所等で確実に実績を伸ばしているが、施工後でも後任担当者が防草ブロック施工現場を識別できるように現在対策を進めている」と述べた。

●第2部
防草研究会の石川重規氏が「防草技術の概要」についてプレゼンテーションを行うと共に、名古屋大学生物機能開発利用センターの北野英己教授が「異分野融合にみる農業の再生」ICT農業への期待」をテーマに講演した。

「防草技術の概要」
雑草で問題となる植物は多年性雑草と呼ばれ、草刈りや防草対策工事を実施しても地下部の根が宿根として生き残る。生育条件さえ整えばどこでも生育し、地下茎が伸びて繁殖する。目地対策などを施しても僅かな隙間から成長する。石川氏は防草製品の特長について、「防草ブロックと防草エレファンドレンは、植物の成長ホルモンに着目して開発された。従来のブロックは目地構造が垂直なので雑草が簡単に成長して地上に出てくるが、我々の防草製品は楔型の目地形状(切欠け)によって成長する植物が行き場を失い、茎が下向きとなり成長ホルモンの調節が異常となることで成長を抑制させる。

また路盤の表面から種子が入りこんだ場合も、根は成長するが路盤へ到達する事ができず、水分吸収も出来なくなり枯死する。植物の生育条件が整っている場所でも防草できるのが我々の防草製品の大きな強みで、目地に8mm程度の隙間があっても植物の成長が止まることを実証研究で確認済み。実際の現場で生じる隙間は2〜5mmを確認しているが、我々の防草製品の防草効果は十分期待できる。除草剤や防草資材などのテープやシート等と比較して費用がかからず経済効果は大きい」と述べ、防草ブロックと防草エレファンドレンの優位性を強調した。

講演会「異分野融合にみる農業の再生」ICT農業への期待」
名古屋大学生物機能開発利用センター・北野英己教授
北野教授は、近年になり繁殖力